

序

知の創造は大学の存在意義の本幹をなすものである。

本学では開学以来、研究活動の検証システムの一環として研究活動一覧が継続的に刊行されており、今年度も第24輯の発行を迎えた。

この研究活動一覧の継続的な刊行は学内に競争的環境を生み出し、研究員のモチベーションを高めることに大きく貢献してきた。一方、社会に開かれた大学として本学における研究の質、量を世に問うてきた役割も大きい。

自己点検評価に始まった大学評価も本学では第三者による外部評価の実行を各部局ともに終了し、今や大学評価・学位授与機構による大学評価が始まろうとしている。

これら国立大学への競争環境の導入は、独立行政法人化に際しては各大学への資源配分へ大きく影響していることが予想されている。研究面においてはその基礎資料となるのが本誌に掲載される本学の研究活動であり、その有する意味は極めて重い。この点を見据えて本学研究者が更なる意気込みで研究の質的向上に当たられることを切望している。

学 長 高 久 晃